

[演題5]

知的障がい者の教育権保障 (オープンカレッジの実践を通して)

清水 拓武¹⁾, 波々伯部 涼¹⁾, 相澤 譲治²⁾

1) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科4年

2) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科

1. 実践研究の背景

知的障がい者対象のオープンカレッジは、本学において2016年度にはじめて実施されたひとつの社会貢献活動である。2017年度は2回目の実施である。オープンカレッジとは、特別支援学校高等部を卒業した知的障がい者にとって、生涯学習の機会がほとんどないことを踏まえて実施されている活動である。

本活動の意義は、①知的障がい者の教育権保障②知的障がい者の発達の可能性③地域社会に対する大学の責務をあげることができる。

2. オープンカレッジ実施に向けて

昨年度の成果と課題を踏まえて、①実行委員会の立ち上げ②講座プログラムの検討③学習サポーターの募集④学習サポーター対象の勉強会の実施⑤当日までの講座の準備⑥学習サポーターの役割分担の確認⑦担当講師との交渉、連絡、調整を実施した。

なお、学習サポーターとは受講生である知的障がい者をサポートする学生ボランティアのことである。基本、1人の受講生に1人の学生サポーターが担当している。そして、実行委員会のメンバーが全体の把握や緊急時の対応等に備えた。

3. 講座の実施

2017年6月10日(土)、24日(土)、7月1日(土)の3日間、計5回の講座を実施した。受講生は、2つの福祉事業所から7名の参加者であった。昨年度、参加された方もおられたが半分以上は、今回初めての参加であった。

講座名と担当者は、次の通りである。

- ①「「こころ」と「からだ」の関係性に触れてみよう」(山本大誠氏 理学療法学科教員)
- ②「じょうずにコミュニケーションをとろう」(森川孝子氏 作業療法学科教員)
- ③「みんなでボッチャをしよう」(水吉達也氏 兵庫県ボッチャ協会会長)
- ④「書道を体験しよう」(実行委員会メンバーと学習サポーター)
- ⑤「アンクルン演奏会」(高野喜恵氏、プレゼント・ガーデン職員及び利用者)

1日目は入学式から始まり、最終日は修了式(修了証書の授与)をおこない、大学の雰囲気を経験していただいた。また、昼食は学食を活用していただき、「自分のお金を持って」「自分でメニューを見て選ぶ」経験をしていただいた。

今回の講座の特色は、書道、アンクルン、ボッチャなどの軽スポーツ、芸術系の科目を実施したことである。「「こころ」と「からだ」の関係性に触れてみよう」「じょうずにコミュニケーションをとろう」も内容的には「からだ」を動

かした体験学習要素の講座であった。昨年度は、グループでの話し合いを取り入れた講座もあったが、今回は「からだ」を動かすことが特色といえる。

4. 成果と課題

(1) 成果

受講後のアンケートによると、概して受講してよかったとの感想があげられていた。また、学習サポーターである学生自身も昨年度経験した人を含め、知的障がいの方との対応の仕方を含め学ぶことが多かったとの指摘がなされていた。

(2) 課題

まず、課題としてあげられるのは、1日目及び2日目の講座が終わった時点で学習サポーターへのアンケートを実施したが、その反省事項の改善が3日目に生かされていなかったことが挙げられる。特に、女性の受講生へは女性の学習サポーターがつけばよかったが、学習サポーター側の事情で同姓が対応できなかった課題があげられる。

次年度以降の課題としては桃山学院大学で実施されているオープン・カレッジへの見学によって他大学での状況を実際に学ぶことや、受講希望者への講座希望アンケートを実施することによってニーズを事前に把握することが重要であると考えられる。



(1日目 「「こころ」と「からだ」の関係性に触れてみよう」授業風景)



(1日目 「じょうずにコミュニケーションをとろう」授業風景)



(3日目 「アンクルン演奏会」授業風景)